

祝辞

令和六年度に長崎大学を巣立つ卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了、誠におめでとうございます。

私、薬学部と同窓会会長を昨年六月より務めております中嶋と申します。長崎大学の全ての同窓会を代表し、心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、長崎大学の各学部・大学院博士前期課程及び修士課程等での学生・大学院生としての生活の中で、様々なことを学び、経験したと思います。

例えば、これから社会人として仕事をしていく上で必要となる専門的な知識や技能・態度。サークル活動や学園祭、アルバイトなどを通して得た友人や仲間たち、地域の人たちとの暖かい交流やご縁。

これらは、皆さん一人一人にとっての社会人としての基礎力の基盤になり、かけがえのない宝物になっているものと思います。

一方、この間、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックや気候変動による自然災害の怖さ、さらに世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエル・パレスチナ間の紛争など国際社会秩序のもろさや不安定さ、また不受理などを目にしてきたことと思います。

そんな色々な経験の中で、皆さんにとって、最も貴重だと思われる経験のひとつは、高校生までとは異なり、自分自身の時間を自ら管理することを経験したことだと思います。

言い換えれば、高校生までの校則というルールから解放され、また親の庇護を離れ、自らの責任で毎日の生活を律する自由を経験したことです。自宅生の卒業生・修了生の皆さんも、高校生までの生活とは大きく変化し

た自立した毎日を過ごされたことと思います。

皆さんは、今でももちろん立派な大人ですが、これからは、さらに一回り大きくなった大人、シン社会人としての自覚と責任を持って行動することが求められます。

皆さんが主役のこれからの時代、テクノロジーの進化に伴う多様性の時代を生き抜くために必要なこと、それは、まず第一に「学び続けること」だと思います。変化する社会や環境に順応していくためには、常に色々なことに対する好奇心を持ち、新しいことを学びたいという意欲を持つことが大切です。

ただし私は、新しくなくても、自分に出来る能力を継続するための基礎を繰り返し、繰り返し学習することも大事だと考えています。その基礎の積み重ねにより、自分自身に対する自信が生まれ、常に前向きな明るい気持ちを持つて、何事にも立ち向かえる大人に成長できると信じています。

そして第二は「人との出会い、つまり縁を大切にすること」です。そして「縁を良縁にするための努力を惜しまないこと」です。

皆さんが、これからの人生で出会う様々な人達に対する感謝の気持ちを紡いでいくことを忘れなければ、皆さんは必ずや、社会や世界に必要なとされる人物になれると信じています。

よく人生を海の航海に例えることがあります。そして大学や大学院の卒業・修了は、その船出に例えられます。

皆さんには長崎大学での学びと経験を通じ、かけがえのない仲間が生まれたことと思います。仲間というものは、普段はその存在を意識しませんが、必要と感じた時に不思議とそばに寄り添ってくれるものです。

皆さんの先輩である我々同窓生は、皆さんが航海で困った時、何かに頼

りたいと思った時に、そばに寄り添える存在でありたいと強く思っています。

私事ですが、現職は薬学部の教授を務めておりますが、十八歳で入学してから四十七年間お世話になった長崎大学を、定年退職と言う形で皆さんと同じ年度に一緒に卒業します。

このような人生の大きな区切りの年に、母校の卒業式で祝辞を述べさせていただく誉を頂戴したことも「素晴らしい良縁を頂いた」と思い、心から感謝しています。

最後に、卒業生・修了生の皆さんの希望に満ち溢れた未来とご臨席の皆様のご健勝とご活躍、そして永安学長のリーダーシップの下での 私達の素晴らしい母校 長崎大学の益々のご発展を祈念して、私からの はなむけの言葉と致します。

令和七年三月二十五日

長崎大学全学同窓会を代表して

薬学部同窓会 会長 中嶋 幹郎

皆さん、本日はおめでとう申し上げます。